

新たな挑戦へ向けて、他県事例をご紹介します！

令和5年度 学校の業務改善
 「子どもたちと向き合う時間」と「教職員のゆとり」づくり

子どもの自主性を育て 手をかけすぎない指導

子どもを中心とする指導観への転換
 「ティーチング（教える）」から「コーチング（導く）」へ
 ・「一言」から「個別指導」へ
 ・「見える」から「隠す・考える」へ

例えらば
 ・子どもが「家習習の内容を選択決定」
 ・金銭面を考慮し「行書」
 ・練習メニューを考案する活動など

校務全般におけるDXの推進

ICTの目的的な活用
 ・得意な先生だけのものにならない
 ・常にICTで業務を推進
 ・広がる可能性の創出

例えらば
 ・デジタル教材の活用・共有
 ・会議のやり取り、資料のやり取り
 ・学校・保護者間の連絡等のやり取りなど

新たな挑戦 - 日課表の見直し -

これまでの課題観・常識からの脱却
 ・あたり前の常識
 ・制度や常識に固まらない見直し
 ・新たな発案の創出

例えらば
 ・中学校：5時下校と100分部活動(守谷市)
 ・中学校：16時半下校の実現(下呂市)
 ・小学校：年間40分5時間授業(高松市)

「大きな壁」を乗り越えるには
 ・ICTは、単なる道具、便利な先生に任せられるものではない
 ・ICTを使う前提がわかる
 ・ICTを使わないほうが、結果を導きだせる
 ・下校時刻が早くても、授業後のまどろみがなくなる

「大きな壁」を乗り越えるには
 ・ICTは、単なる道具、便利な先生に任せられるものではない
 ・ICTを使う前提がわかる
 ・ICTを使わないほうが、結果を導きだせる
 ・下校時刻が早くても、授業後のまどろみがなくなる

「大きな壁」を乗り越えるには
 ・ICTは、単なる道具、便利な先生に任せられるものではない
 ・ICTを使う前提がわかる
 ・ICTを使わないほうが、結果を導きだせる
 ・下校時刻が早くても、授業後のまどろみがなくなる

「大きな壁」を乗り越えるには
 ・ICTは、単なる道具、便利な先生に任せられるものではない
 ・ICTを使う前提がわかる
 ・ICTを使わないほうが、結果を導きだせる
 ・下校時刻が早くても、授業後のまどろみがなくなる

「大きな壁」を乗り越えるには
 ・ICTは、単なる道具、便利な先生に任せられるものではない
 ・ICTを使う前提がわかる
 ・ICTを使わないほうが、結果を導きだせる
 ・下校時刻が早くても、授業後のまどろみがなくなる

前号のVOL.14では、県庁インターンでの学生からのアイデアとディスカッションの内容をお届けしました。近い将来行政職として活躍したいと考える若者のアイデアはいかがでしたでしょうか。

今回は、具体的な取組へ向けて、他県での事例をご紹介します。次の年度へ向けて具体的に見直しをされる予定の学校においては、ぜひ参考にしてみてください。
 4月に発信した「令和5年度 学校の業務改善」のうち、赤枠部分で挙げている岐阜県下呂市、茨城県守谷市の中学校の例についてご紹介します。

守谷型カリキュラムマネジメント(週3日以上5時間授業)
 +
17時下校と100分の部活動の両立

【守谷型カリキュラムマネジメント】
 ・全教室エアコン完備→8月下旬授業
 ・前後期制の導入
 ・始業式・終業式、創立記念日の授業・給食実施
 ⇒週3日以上5時間授業「アーリーデー」

- <改革による効果>**
- ①生徒の早期下校
 - ②部活動時間の確保
 - ③活動内容のメリハリと効率化
 - ④教職員の部活動後のゆとり

●「アーリーデー」の日課●

	月	火	水	木	金
	アーリーデー		アーリーデー		アーリーデー
朝の会					
1	～部活動の時間について(目安)～ ○月・水・金曜日 15:00～16:40				
2	50分×2(100分)				
3	○火曜日	15:50～16:40(50分)			
4	○木曜日	部活なし			
	○休日	3時間程度(土日いずれか1日)			
給食 昼休み					
5					
6	100分	50分	100分	部活なし 16:00 下校	100分
放課後	部活動終了後 16:50下校				

岐阜県下呂市

**十分な授業の時間を確保+部活動の時間の確保
地域の協力も得て、16時半下校の実現**

- ・登校時間・授業開始は従来通り
- ・学校行事の準備や練習のために授業を使うことを減
⇒十分な授業時間の確保を優先

<大きかった障壁>
 バス通学の生徒が多い地域(コミュニティバスを利用)
 ⇒地域の理解を得て、生徒の下校時刻に合わせダイヤ改正

- <改革による効果>**
- ①授業準備の時間の確保
 - ②教員の心のゆとり
 - ③冬季も部活動のオフシーズンが無い

<課題点>
 下校後の生徒自身の時間の使い方
 ⇒生徒自身にどう考えさせるか

●以前の時間割●

	月	火	水	木	金
6時間目	6時間目	6時間目	6時間目	6時間目	委員会など
	清掃	清掃	清掃	清掃	清掃
16:30	部活動		部活動	部活動	
17:35	部活動(夏)		部活動(夏)	部活動(夏)	

<下校時刻>夏:18:00～18:30 冬:16:50～17:00

冬季の下校時刻で
 夏季と同等の部活動時間は確保できないか？

●16時半下校の時間割●

	月	火	水	木	金
6時間目	清掃	6時間目	6時間目	清掃	
	部活動	7時間目	部活動	部活動	
16:30					
17:35					

●部活動時間の確保●

大会期間(サマー・オータム)		オフシーズン									
100分→120分に拡大⇒下校時刻17:10		平日週2日部活なし(火・木)									
前期【4月始業式～10月3連休前まで】					後期【10月3連休後～3月修了式まで】						
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
スタンダード シーズン		サマーチャレンジ シーズン		夏 休み		オータムチャレンジ シーズン		オフ シーズン 冬休み		スタンダード シーズン	春 休み

編集後記

現在、県内各校の管理職のみならず、「令和5年度 学校の業務改善」について振り返っていただくアンケートフォームへのご回答をお願いしております。お忙しい中、ご協力いただき、ありがとうございます。

1月末をメ切とさせていただいていますが、いち早く頂きました回答からは、このGGKニュースで取り上げた以外にも多種多様に、そして主体的に取り組まれている様子をうかがうことができます。

ぜひ、引き続きの取材のご依頼をどうぞよろしくお願いいたします！

次号 VOL.16も
お楽しみに！

